

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
リハビリテーション医学		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山本 泰宏	C304	yasuhiro_yamamoto	水曜日 9:00～10:30		
授業の目的・概要	<p>目的：リハビリテーション医学の全体像を理解する。</p> <p>概要：まず障害について学び、なぜ障害を克服するのかその基本的思想を学ぶ。次に障害を克服する方法の流れが決して特殊なものではなく、社会の一般的考え方に従っているものであることを学ぶ。最後に授業内容からリハビリテーション医学の定義と理念を考察する。講義は Teams での遠隔授業で行う。</p>				
学習上の助言	<p>具体的な治療技術を学ぶ以前の重要な知識と考え方を学ぶ授業であるので、評価は厳しく行う。教科書を指定しないので、講義をよく聞いて授業中に疑問点を質問して解決すること。</p>				
教科書	なし。				
参考書	必要に応じ、授業中に随時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	リハビリテーション医学の成り立ちを説明できる。	HSU (1)、(2)、PT (1)、(2)、(3)、OT (1)、(2)			
②	障害を科学的視点で説明できる。	HSU (1)、(2)、PT (2)、(3)、OT (1)、(2)			
③	ADL と QOL について説明できる。	HSU (3)、PT (3)、OT (2)			
④	リハビリテーション医学の構造を説明できる。	HSU (2)、PT (3)、(4)、OT (2)、(3)			
⑤	リハビリテーション医学の過程を説明できる。	HSU (2)、(5)、PT (2)、(3)、(4)、OT (2)、(3)			
⑥	リハビリテーション医学の定義と範囲を説明できる。	HSU (2)、(3)、PT (1)、(2)、(3)、(4)、OT (1)、(2)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	本科目の Guidance。 リハビリテーションの成り立ちとなる戦傷軍人を救済する法整備、自立生活運動、normalization を学ぶ。	講義 (同時 双方向型授 業)	リハビリテーションの源流となつた 3 つの流れを復習する。	3.5	
2	ICIDH、ICF の概要を学び、障害を客観的に理解する。	講義 (同時 双方向型授 業)	ICIDH と ICF の違いと、ICIDH から ICF ヘシフトした理由を復習する。	3.5	
3	障害者の苦しみについて学び、主観としての障害を理解する。	講義 (同時 双方向型授 業)	主観としての障害の構造とそれを克服する要素と、その克服を阻害する要素を復習する。	3.5	
4	障害者に対する社会の取り組みを学ぶ。	講義 (同時 双方向型授 業)	社会が障害者に対してどのような取り組みを行っているのか、そのための法整備の内容を復習する。	3.5	
5	ADL と QOL について学ぶ。	講義 (同時 双方向型授 業)	ADL と QOL の内容と、相互の関係を復習する。	3.5	
6	リハビリテーションの構造と段階を学ぶ。	講義 (同時 双方向型授 業)	リハビリテーションに様々な巨視的段階があることを復習する。	3.5	
7	リハビリテーション医学の過程が一般的課題解決方法の応用であることを学ぶ。	講義 (同時 双方向型授 業)	リハビリテーションの過程が一般的課題解決方法の応用であることを復習する。	3.5	
8	これまでの講義内容を踏まえ、リハビリテーション医学とは何か、その理念を考える。 レポート作成。	講義 (同時 双方向型授 業)	7 回の講義内容を統合して、リハビリテーション医学の定義と理念を復習する。	4	
試	レポート				

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	60	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント			フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	レポートの形式・内容等々を評価する。レポートの採点基準は授業中に説明する。			Comment を付け返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：山本泰宏 実務経験：整形外科医として 34 年間リハビリテーションに従事してきた。</p> <p>Power Point 視聴・同時双方向行為等があるので、通信容量無制限の Wi-Fi 環境の確保を勧める。途中で通信が途絶えた場合は録画した講義を見てください。</p> <p>成績評価はレポートで行うが、履修者が多いため、成績は後期期末試験までに公表する。学習上の助言にも記載したように、具体的な治療技術を学ぶ以前に必要な医療従事者として必要不可欠な知識の講義であるので、評価は厳密に行う。</p> <p>今後の情勢によっては授業内容・シラバスの再度の変更もありうる。その場合には事前に告知する。</p>							